

令和7年9月 大槌町議会定例会

行政報告

令和7年8月28日

大 槌 町

本日、ここに令和 7 年 9 月大槌町議会定例会の開会にあたり、6 月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

1 はじめに

はじめに、ロシア・カムチャツカ半島付近を震源とする地震に伴う対応について申し上げます。

去る 7 月 30 日、午前 8 時 25 分頃に発生した地震により、太平洋側を中心に「津波注意報」、のちに「津波警報」が発表されました。

当町では、「津波注意報」の発表に伴い「災害対策本部」を設置し、海岸付近にいる方への避難指示を発令しました。

その後、「津波警報」発表に伴い、町内 4,777 世帯、9,826 名に対し避難指示を発令し、災害対策本部を中央公民館へ移動しました。

避難者数は、町内 16 箇所の避難所で、最大 877 名となりました。

被害状況は、人的被害として、避難所において 1 名が体調不良により救急搬送される事案がありましたが、命に別状はありませんでした。

水産関係被害につきましては、「こんぶ養殖施設」1 台と「わかめ養殖施設」2 台において、施設を固定するアンカーブロックが動く被害が確認され、総被害額は 45 万円程となっております。

今回の避難所対応では、暑さ対策が大きな課題となり、「城山公園体育館」や「吉里吉里学園小学部」では、予定していた避難スペースから冷房

のある部屋へ移動いただくなどの対応を取りました。

しかしながら、避難の長期化、避難者数の増加を想定すると、さらなる対策が必要であると改めて痛感しました。

当町では公共施設整備において避難所指定施設を優先とした空調環境の整備を進めてきたところですが、今回の状況を分析しつつ、国や県、関係者と現状を共有し、協力を得ながら、より一層の避難所環境改善に向け、引き続き取り組んでまいります。

以下、第9次大槌町総合計画に掲げる基本方針に沿って、各分野の取組みについて、ご報告申し上げます。

2 各分野の取組について

【産業・観光】

はじめに、「産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり」の取組みについて申し上げます。

（サーモン養殖の生産拡大）

本年度の「岩手大槌サーモン」は、7月12日まで水揚げを行い、水揚げ量が暫定で1,256トン、水揚げ額は約15億円となり、当初計画の1,000トンを上回る実績となりました。

来年度の水揚げ量は 1,500 トンを計画しており、令和 9 年度の年間 2,000 トンの達成に向け、生産体制の強化等、関係団体や事業者の皆様と連携しながら取り組んでまいります。

（岩手大槌サーモン種苗生産施設）

次に、和野地区で建設中の岩手大槌サーモン種苗生産施設について申し上げます。

種苗生産施設につきましては、附帯設備工事の一部に遅れが生じ、施設の完成時期は本年 10 月以降の見込みとなっております。

施設が完成するまでは、「大槌川ふ化場」と「釜石東部漁業協同組合 鵜住居ふ化場」で分散飼育が行われ、遅延による影響は軽微と見込まれております。

今後は、水揚げ量の増加を活かした加工や流通、地元消費の拡大、6 次産業化の推進など、地域経済への波及効果を高める施策を検討するとともに、水温上昇や自然災害などに備え、安定的な稚魚養殖体制の整備を関係機関と連携し、進めてまいります。

（サーモン祭り）

次に、サーモン祭りについて申し上げます。

去る 6 月 8 日、「第 5 回岩手大槌サーモン祭り」及び「大槌町郷土芸能

祭」を安渡海づくり記念公園において同時開催しました。

恒例となった「サーモンつかみ取り」や「After I ^{アフター アイ ダイ}die」こと白澤岬さんの里帰りライブ、町内8つの郷土芸能団体に勇壮な舞を披露していただくなど、多くの来場者を魅了しました。

町内外からの飲食店や物販などの出店数は90店にのぼり、来場者数は過去最高となる推計2万人、出店事業者の合計売上総額は約1千万円となりました。

また、今回は町内宿泊施設と連携し、サーモンつかみ取り参加券付き宿泊プランを用意するなど、町への周遊観光につなげるべく新しい試みにもチャレンジしました。

来年度の第6回の開催に向けて改善等を行い、町内の経済活性化のため、より一層の集客と魅力発信を図ってまいります。

（大槌未来へ繋ぐブルーツーリズム推進事業）

次に、大槌未来へ繋ぐブルーツーリズム推進事業について申し上げます。

本事業は、観光庁のブルーツーリズム事業を活用し、昨年度に引き続き、海水浴場などにおける安心・安全な受入環境の整備、海を活用した体験型観光コンテンツを企画・開発、情報発信や観光プロモーションを一体的に推進し、水産業と観光業の振興を図っております。

本年４月には、吉里吉里海岸海水浴場が国際環境認証「ブルーフラッグ」を取得するとともに、海水浴場開設にあたっては、地域住民をはじめ県内外の企業・団体の皆様による大規模なビーチクリーンが実施され、大変意義深い取り組みであると考えております。

海水浴場の来場者数は浪板海岸を含め１万４,５０１人となり、昨年度を大きく上回る結果となりました。

また、体験ツーリズムとして「地引網」や「^{サップ}SUP体験」を実施するなど、町の魅力を広く発信する機会となっております。

今後も、誰もが安心して楽しめ、そして多くの方々に愛されるビーチづくりを目指して、取り組みを進めてまいります。

（商業施策支援）

次に、商業施策支援について申し上げます。

物価高騰等の長期化により、町内中小企業者の経営環境は依然として厳しい状況にあります。

こうした状況の中、当町では事業者の経営を下支えし、地域内消費の喚起を通じて経済活性化を図ることを目的に、プレミアム率２５％の「おおちゃん地元応援券」を発行しました。

初回販売として６月に１万６千セット、追加販売として８月に３千セット、合計１万９千セットを販売し、既に完売しております。

参画店舗は飲食、小売、サービス業など幅広い業種で 154 店舗にのぼり、全ての応援券が換金されると 2 億 3,750 万円が町内消費されたこととなります。

本事業により、町民の購買意欲を高め、町内での経済循環を促進するとともに、物価高騰における家計の負担軽減に大いに効果があったと考えております。

今後におきましても事業効果を検証しながら、地域経済の持続的な発展に資する取組みを推進してまいります。

【健康・福祉】

次に、「健康でぬくもりのあるまちづくり」の取組みについて申し上げます。

（ドクターカーの試行運用）

県立大船渡病院救命救急センターでは、救急要請患者の救命率の向上を目指して、救急車と同時に医師や看護師を乗せた緊急車両を患者の元へ派遣し、病院到着前から診療を開始するドクターカーの運行を岩手県内では初めて、大船渡市及び住田町で昨年 4 月から開始し、本年 2 月からは陸前高田市まで運行エリアが拡大されております。

そして、来る 9 月 16 日からは、釜石・大槌地区で試行運用が開始され

ます。

当町においては、町の中心部から救命救急センターのある大船渡病院までの距離が約 50 kmあることから、ドクターカーが運用された場合の効果は非常に大きいものと期待しております。

試行運用開始にあたっての詳細については、今後、県立大船渡病院及び釜石市等と連携を図りながら町民への周知に努めてまいります。

【教育・文化】

次に、「学びがふるさとを育て ふるさとが学びを育てるまちづくり」の取組みについて申し上げます。

（吉里吉里学園の施設一体化）

はじめに、吉里吉里学園の施設一体化について申し上げます。

現在、吉里吉里学園小学部の校舎は建築から 20 年以上経過しており、長寿命化改修が必要な時期となっております。

また、昨年 10 月、吉里吉里学園 P T A から児童・生徒数が年々減少傾向にあるため各校単独での行事開催が難しくなっている等の理由により、現行の施設分離型から中学部の施設を小学部へ一体化する要望がありました。

この要望について、地域住民懇談会の開催やアンケート等を実施し、

地域住民、町議会の皆様から意見を伺ってまいりました。

その結果を踏まえ、吉里吉里学園の施設一体化が必要と判断し、去る8月21日に開催した総合教育会議での協議を踏まえ、吉里吉里学園施設整備基本方針及び計画を策定しました。

今後は、「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」を設置し、課題に真摯に向き合い、学びの充実に向けて着実に施設整備を進めてまいります。

（東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム）

次に、東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムについて申し上げます。

東京大学における多様な関係者との協働を通じて社会課題に挑戦するリーダー人材の育成を目指す「フィールドスタディ型政策協働プログラム」のフィールドの一つに、当町が実施している、誰一人とり残さない学びを保障する大槌型特別ニーズ教育である「けやき共育」が選定され、8月21日・22日の2日間、第1回現地活動が実施されました。

今回の活動では、参加した東京大学在学中の4名の学生が保育施設や学園の視察、放課後教室での児童との交流などを実施しました。

今後は、9月の第2回現地活動を経て、来年3月の最終報告会において当町の、「けやき共育」の課題に対する提案が行われる予定となっております。

本プログラムを通じ、学生との協働を深め、将来的な関係人口創出と地域活性化に繋げてまいります。

（社会教育振興及びスポーツ・文化）

次に、「社会教育振興」及び「スポーツ・文化」について、申し上げます。

去る7月19日、生涯学習講座として、久慈市の小久慈焼きの窯元で陶芸体験を行うバスツアーを開催しました。

窯元での陶芸を体験した参加者からは、また開催してほしいとの声上がるなど、好評を博しました。

今後も、町民が楽しみながら学ぶことができる講座を開催してまいります。

スポーツの分野におきましては、学校の夏休み期間中となる7月末から8月にかけて、少年野球の全国大会、県大会等が大槌町営野球場を会場に開催され、夏空の下、子どもたちの熱い戦いが繰り広げられました。

来る9月7日には「第47回岩手県学童相撲大会」が大槌町相撲場を会場として開催される予定となっており、小学生力士の熱戦が期待されております。

また、現在、築30年を経過した大槌町寺野多目的体育館の長寿命化改修工事を実施しております。

今後もスポーツ施設の維持管理等に努め、町内外の方がスポーツを楽しめる環境づくりを進めてまいります。

(鎮魂の森)

次に「震災伝承」について申し上げます。

大槌町鎮魂の森「あえーる」は、本年6月末に竣工し、8月5日には、町議会議員の皆様をはじめ、町内外から来賓60名のご臨席のもと、完成記念式典を挙行了しました。

式典後は、ご遺族の方をはじめ、多くの方々にご来場及び献花を賜り、無事に供用開始を迎える運びとなりました。

東日本大震災津波から14年と5カ月が経過いたしました。改めて、犠牲となられた方、いまだ行方不明の方への鎮魂、追悼の意を捧げる機会となりました。

8月15日には、追悼と鎮魂の思いを込め、安渡海づくり記念公園を会場に、鎮魂の森完成記念花火の打ち上げを実施しました。

東日本大震災津波で犠牲となられた方と同数の1,286発の花火を打ち上げ、故人一人一人への思いを馳せる機会となりました。

今後も、東日本大震災津波で亡くなられた方々への追悼と鎮魂、そして震災伝承に資するよう同施設や大槌町文化交流センターの展示物など、震災資料や施設を活用した事業に取り組んでまいります。

（思い出の写真返還会）

次に、「思い出の写真返還会」について申し上げます。

昨年度に引き続き、8月13日から15日にかけて、多くの帰省者が見込まれるお盆時期に合わせ、東日本大震災津波で流出した写真を所有者及びご家族のもとに返還する取組みとして、「思い出の写真返還会」を開催しました。

また、思い出の写真返還会開催に合わせ、大槌町復興研究会、伝承の館の写真展示も行い、74名の方にご来場いただき、19枚の写真が所有者のお手元に戻ることとなり、震災を忘れない、伝える、備えることの理解を深める機会となったものと捉えております。

（旧役場庁舎跡地への石碑建立）

次に、東日本大震災津波大槌町役場犠牲職員遺族有志の会及び東日本大震災津波大槌町役場犠牲職員慰霊碑建立有志の会より要望されておりました旧大槌町役場庁舎跡地への石碑建立について申し上げます。

去る8月4日、3つの条件を付したうえで建立を容認することを有志の会に対し回答しました。

3つの条件として、1つ目に「伝承碑に刻む碑文を見直すこと。」、2つ目に「伝承碑の基礎部分において、敷石は敷設しないこと。」、3つ目に「伝承碑の活用や維持管理等に関する協定を締結すること。」としました。

なお、本件につきましては、住民説明会を開催し、町民との意見交換に努め、石碑建立についてご理解いただけるよう、対応してまいります。

（東日本大震災記録誌「生きる証」の一部落丁）

次に、東日本大震災記録誌「生きる証」の一部落丁について申し上げます。

昨日、8月27日、記録誌の作成・製本事業者から、報告書の提出がありました。

事業者からは、落丁の原因として「製本工程作業中に落丁した可能性が高い」との報告を受けております。

現在のところ、落丁が確認された記録誌は一冊ですが、今後、不良品が確認された場合には交換対応してまいります。

【安全・快適】

次に、「安全性と快適性を高めるまちづくり」の取組みについて申し上げます。

（災害に強いまちづくりの推進）

はじめに、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

去る6月30日に、当町の地域防災計画の見直しを図るため、28名の委員出席のもと、中央公民館大会議室において、「大槌町防災会議」を開催

いたしました。

会議では、各委員の専門的な知見から意見をいただき、避難所の良好な生活環境を整えることや、空中偵察におけるドローンの活用などについて見直しを図り承認をいただきました。

併せて、当町の防災対策に係る取組みについて説明したほか、代替の災害対策本部室や防災倉庫なども視察いただいたところであり、委員の方と相互理解を深め、より一層の連携を図りながら取組みを進めてまいります。

また、防災行政無線設備更新工事では、現在、各地区の屋外拡声子局の更新作業を鋭意進めており、引き続き、工程管理に努め工期内に完成できるように進めてまいります。

大ヶ口地区に整備する津波避難施設については、現在、用地測量調査業務を実施しており、本年度内の用地取得、来年度の造成工事発注に向け、鋭意取り組んでまいります。

今後もソフトとハード両面からの対策を講じながら、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

（大槌山田紫波線道路整備促進期成同盟会）

次に、大槌山田紫波線道路整備促進期成同盟会の取組みについて申し上げます。

去る 7 月 15 日、盛岡市において総会を開催しました。

また、同日に、岩手県庁において、土坂峠トンネル化をはじめとする構成市町からの要望活動を実施したほか、7 月 28 日から 29 日にかけて、県内の道路整備促進期成同盟会 10 団体による合同要望に参加し、岩手河川国道事務所、東北地方整備局、中央省庁及び県選出国會議員等への要望活動を実施しました。

今後も、構成市町と連携し、要望事項の実現に向け、取組みを進めてまいります。

【将来を見据えた持続可能なまちづくり】

次に、「将来を見据えた持続可能なまちづくり」を進めるための取組みについて申し上げます。

（ふるさと納税）

当町における令和 6 年度のふるさと納税受入額は 9 億 4,986 万 4,800 円、寄附件数は 5 万 2,641 件であり、寄附受入額順位は都道府県を含む全国 1,788 の自治体中第 340 位、岩手県内 33 市町村中第 6 位となりました。

これもひとえに、寄附者の皆様が、東日本大震災津波から一步一步、

着実に復興の歩みを進める当町に共感、応援していただいているものと推察し、深く感謝を申し上げます。

令和7年度は、7月末現在で受入額は約1億8,200万円、寄附件数は約9,500件となり、対前年同期比は金額で102.0%、件数で91.7%となっております。

引き続き、ふるさと納税の管理等を委託している大槌町観光交流協会及び返礼品提供事業者と緊密に連携し、寄附者の満足度向上につながる魅力的な返礼品の開発・提供に努め、安定的かつ効果的な財源確保に取り組んでまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、人事案件、条例改正、補正予算、決算等を御提案しております。

何卒よろしく御審議の上、議員各位並びに町民の皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げ、行政報告といたします。